

第6回 都道府県防犯設備士(業)協会全国大会開催



2011年11月11日（金）、ホテルモントレ神戸にて第6回 都道府県防犯設備士(業)協会全国大会が開催されました。全国の防犯設備士(業)協会からは25協会の方々に参加いただき、また、警察庁、兵庫県警察本部からも多数のご来賓の方々の出席を賜り、オブザーバとして、総合防犯設備士の方々、運営幹事会の方々にも多数ご出席いただきました。

第一部本会議では当協会服部代表理事から開会の挨拶に続いて、ご来賓を代表して警察庁生活安全局生活安全企画課 専門官 嶋田 和也様と、兵庫県警察本部生活安全部 部長 谷川昇様からご挨拶をいただきました。



司会：大手一郎 制度事業担当部長

その後、報告事項に移り、「地域協会設立状況と防犯設備士・総合防犯設備士の登録者数」、「地域社会へのアンケート調査結果の報告」、「役割分担と実施状況について」、「防犯設備士の更新制度と専門研修について」、「防犯優良マンション認定制度などの検討状況について」の報告が行われ、報告事項についての活発な討議が行われ、来年度に向けての検討課題が確認されました。休憩をはさみ、地域の4協会から「協会のご紹介と活動トピックス」が報告され、引き続き、次回開催地の審議を行い、次回開催地を東京都とすることを満場一致で承認されました。

その後、第2部の講演に移り、当協会RBS委員会 委員長・映像セキュリティ委員会 前委員長三澤 賢洋氏より、「MIP教育プログラム」についての講演がありました。

開会のご挨拶

公益社団法人 日本防犯設備協会 代表理事 服部 範雄

本日は、第6回都道府県防犯設備士(業)協会全国大会を開催しましたところ、警察庁生活安全局から嶋田専門官、柳坂担当係長、地元兵庫県警察本部からは谷川生活安全部長、武田課長補佐のご出席をいただいておりますこと、主催者を代表しまして心から御礼を申し上げます。

今年度は4月1日から公益社団法人への認定・移行の回答を内閣府から年明け早々からいただいております。また、6月には当協会創立25周年という節目で、内心張り切って新年度を迎えようと準備をしていたところでございます。ところが、3月11日東日本大震災、それに伴う福島原子力発電所での事故という大変な大惨事が起き、日本全体が様々な意味合いで混乱に陥りました。

多くの方が命を失われましたことに、あらためてご冥福をお祈りいたします。また、今日でも避難所あるいは、仮設住宅で生活している方々、さらには、全国に避難場所を求めて不自由な生活をされている人が大変数多くおられますことに、心からお見舞いを申し上げます。

ところで、当協会は創立25周年を迎え、防犯設備士の登録者数は、全国で2万2,004名、さらには地域協会36協会の設立という着実な歩みを示しております。しかしながら、昨今の景気の状態、あるいは東日本大震災の影響で、受講・受験者の数が伸び悩んでおります。特に今年の6月開催の受講・受験者は昨年よりも150名近く減少し、9月の受講・受験者数は持ち直しましたが、11月18日、19日に予定しております受講・受験者数も落ち込むというような大変厳しい状況が続いております。

こうした中で、本年度から第3次中期計画が策定され、新たな計画に基づいた事業計画がスタートしました。第3次中期計画では様々な実行項目を盛り込んでおりますが、やはり日本防犯設備協会を中心と

した私たちの活動を世の中の人に知っていただく、あるいは実力を知っていただくということが一番大切ではないかと考えております。この

ようなことを踏まえてスタートしたばかりではございますが、私をリーダーとするプロジェクトチームを発足し、若干の歩みを始めております。プロジェクトチームでは、様々な施設へのセキュリティシステムのアドバイス、コンサルティングを最新の知識を踏まえ行い、当協会のアピールを行ってまいりたいと考えております。

また、様々な世の中の動きを敏感にキャッチして、それに対して当協会が持っている知識、経験、個々の会員企業の様々な機材に対する知識、あるいは技能等もアピールできればと考えております。

このような活動が、直接皆さんのビジネスの成果として直ぐに現れるかどうか分かりませんが、防犯設備士の講習・試験を受講・受験される方も減少している中、面白そうだなとか、あるいは困った事があれば当協会へ相談してみようとか、そのような動きが世の中に出てくれば良いのではないかと考えております。いずれにしても、皆様とこれまで以上に綿密な意思の疎通、連携を図り、当協会の活動、あるいは皆様の事業の活動を盛り上げていければと考えておりますので、引き続き当協会へのご支援をよろしくお願いいたします。

最後に、今回の大会の準備にあたりまして、地元兵庫県防犯設備協会の皆様方に大変お世話になり、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

本日は有難うございます。



来賓のご挨拶

警察庁生活安全局生活安全企画課課長 宮城 直樹 様
(生活安全企画課 専門官 嶋田 和也様 代読)

本日お集まりの皆様方におかれましては、防犯設備を通じて犯罪の起きにくい社会づくり、とりわけ各地域に密着した安全・安心なまちづくりの推進に向けて、日頃からご尽力いただいておりますことに、心から感謝を申し上げます次第であります。

また、今般の東日本大震災において、貴協会の会員の皆様やご身内の方が被災に遭われた方もいらっしゃるのではないかと思います。心よりお見舞い申し上げます。

さて、最近の犯罪情勢を見ますと、皆様のご尽力のおかげもあり、刑法犯認知件数は、昨年で8年連続で減少し、本年も減少しております。また、国民が安全・安心な生活を営む上で最も拠りどころとなる住宅を対象とした侵入窃盗につきましても、昨年の認知件数は約7万5千件で、毎年減少傾向にあります。しかしながら、全国で毎日200件を超える住宅が被害にあっている状況など、治安に対する国民の不安を解消するには至っておりません。

このような犯罪情勢の中、警察といたしましては、犯罪の起きにくい社会づくりに向けて、犯罪が多発する地域において、犯罪抑止に極めて高い効果を発揮する防犯カメラの設置を積極的に推進しているところであります。防犯カメラを各地域の環境に応じて適切・円滑に設置するためには、防犯カメラやネットワークの選定、構築手法などの専門的な知見をお持ちの地域の都道府県防犯設備士（業）協会、あるいは防犯設備士の皆様が中心となって警察はもとより、設置しようとする自治体や商店街の方々と連携を密にして、互いに協力し合っていただくことが大きな鍵となるものと考えており、ここに改めて、こうした動きへのご支援、ご協力をお願いするものであります。

また、防犯ボランティアは、近年の国民の参加意識の高まりを受け、平成22年末現在で団体数におい

て4万4千508団体、構成員につきまして約270万人もの規模に膨らんでおります。

警察といたしましても、防犯ボランティアへの支援事業を継続してまいります

が、効率的、効果的な活動を推進するためには、皆様が防犯アドバイザー活動などを通じて、地域の防犯ボランティアの活動を支援していただくことが重要であると考えております。

私どもといたしましても、先ほどお願いしましたご支援を賜る上では、現在36設立されている地域の協会が各地に万遍なく設立され、各地域に根付いた活動と全国の防犯ネットワークの絆を強め、各地の警察とも密接に連携していただく関係が構築されることが望ましいと、皆様の活動に期待をしているところであります。

最後になりましたが、本日この大会にご出席されている皆様方のご多幸とご健勝を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。



来賓のご挨拶

兵庫県警察本部 生活安全部長 谷川 昇様

ただいまご紹介いただきました兵庫県警察本部 生活安全部長の谷川でございます。本日は「第6回都道府県防犯設備士(業)協会の全国大会」がこの兵庫の地でこのように盛大に開催されますことに、心よりお慶びとお祝いを申し上げます。折しも、本日は、あの未曾有の東日本大震災から8ヶ月目にあたり、今なお3,652名の方が行方不明の状態にあります。改めましてご遺族、被災に遭われた方々に対しまして、お悔みとお見舞いを申し上げる次第であります。

さて、服部代表理事をはじめ、皆様方には長年にわたり、それぞれの地域で優良な防犯設備機器の普及促進や防犯意識の啓発などに熱意を持って取り組んでいただいておりますこと、また、警察活動各般にわたりまして、温かいご理解とご支援を賜っておりますことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

ところで、せっかく兵庫県にお見えいただいておりますので、若干兵庫の紹介をさせていただきます。ここ兵庫の国というのは、よく「日本の縮図」と言われるように、多様な地域を有しており、その昔は摂津、播磨、丹波、但馬、淡路という五つの旧国、もう少し広く考えれば、現在の岡山県の美作と備前を含めて七つの旧国で、この兵庫の地が成り立っております。これが明治時代に兵庫県という一つの県に集約、構築されたこともあり、地勢とか民情がそれぞれの地域で異なっている中、現在701の交番と駐在所でこの兵庫県内の治安を私どもがあずかっております。

全国の犯罪情勢ですが、平成14年に戦後最悪の約285万件を記録し、その後、8年連続で減少しております。昨年は約158万件まで減少し、平成14年と平成22年を比べますと約45%の減少となっております。しかしながら、体感治安を解消するには至っておらず、治安の改革も道半ばではないかと考えてお

ります。また、このような減少の要因は様々あると考えられますが、やはり住民の方々の意識、住民パワーが一番であると考えております。

私はその中で、1つの事件がこの防犯意識に大きな影響を与えたと考えております。皆様もご記憶にあるかと思いますが、平成15年7月1日に長崎市で種元駿ちゃんという4歳の男の子が誘拐をされて殺された事件であります。この事件後、ある中学校の教諭が、その被害現場に思いを綴った手紙を置かれたのですが、7月17日のある新聞記事にその全文が掲載されました。その内容につきましては、『しゅんちゃん、ごめんな』という言葉から始まりまして『痛かったやろ、怖かったやろ、あなたの周りにいっぱい大人がおったのに、あなたを助けることができなかった。昔の長崎はこんな感じではなかった、せまい街でみんなの目や顔がお互いに見えとった。それがいつの間にかこんな街になってしまった。』中略になりますが、その教諭は『何年経っても、近くに來たときは、君に会いに來ます。』そのような記事が掲載されていまして。その文章を読んだときに非常に大人として情けなかった思いをした記憶があり、この事件を契機として、全国的に防犯意識が復活してきたのではないのでしょうか。日本には、昔から「安全と水はただ」という言葉がありますが、それが時代の変遷により、「夜は一人で出歩くな」という言葉に変わり、今では「家にいても危ない」時代になってきており、私人や事業者が「自らの安全には自らがコストを負担する」など意識の変化がみられるところであります。今後、犯罪の起きにくい社会づくりに何が一番必要



なのかを考えたときに、やはり防犯環境の整備充実がなくてはならないのであります。犯罪学上の犯罪発生メカニズムには、3つの要因があると言われています。犯罪者がいること、被害者（品）があること、そしてもう一つが一定の社会環境であり、犯罪者と被害者が一定の社会環境の中で出会うことから犯罪は発生します。この社会環境、防犯環境を物理的にきれいに整備する一翼を担っておられるのが、今日お集まりの皆さんだと私は考えております。

犯罪者というのは、「目」、「光」、「音」、「時間」、この四つのキーワードを嫌います。防犯機器も“監視”から“見守り”への時代であり、皆様方には、より防犯性能の高い機器の開発・改善と普及促進に取り組んでいただきますよう、ご尽力をお願いいたします。

終わりに当たりまして、公益社団法人日本防犯設備協会の益々のご発展と本日お集まりいただきました皆様方のご健勝、ご多幸、ご活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は、誠におめでとうございます。



各地域協会の活動トピックス（抜粋）

NPO法人 兵庫県防犯設備協会

専務理事 島田 清 様

■活動の内容

安全で安心して暮らせる兵庫県づくりに社会貢献することを目的として活動

- ・防犯優良マンション認定制度の審査
- ・防犯優良駐車場登録制度の審査
- ・防犯相談、防犯診断
- ・防犯設備機器の展示説明会
- ・防犯講演



NPO法人 兵庫県防犯設備協会 島田専務理事

NPO法人 福岡県防犯設備士協会

事務局長 藤満 弘 様

■「セキュリティ・アパート認定制度」の紹介

～制度発足理由及び流れと認定基準について～

- ・福岡県の犯罪発生情勢について
(福岡県内の性犯罪発生状況含む)
- ・性犯罪対策について
- ・部屋探しに関する意識調査結果
- ・本制度の認定基準、認定団体、認定までの流れ



NPO法人 福岡県防犯設備士協会 藤満事務局長

奈良県防犯設備士協会

会長 池田 勝亮 様

■協会の沿革

■活動内容

- ・安全安心県民会議への参加
- ・ゲートウェイ犯罪防止協議会への参加
- ・県安全安心アドバイザーチャレンジ事業への参加
- ・防犯モデルマンション審査委員の派遣
- ・防犯教室への講師派遣
- ・警察学校への専科講師派遣
- ・(社)新しい公共訓練校への講師の遣
- ・地域安全運動各地区への展示協力
- ・地域安全運動地区大会の運営協力
- ・奈良県地域貢献助成金制度を利用した事業への取り組み



奈良県防犯設備士協会 池田会長

福島県防犯設備協会

会長 渡邊 弘志 様

■協会の設立

- ・平成23年2月に再設立

法人会員22社、個人会員5名、賛助会員3社

■東日本大震災後の活動

- ・福島県警察本部からの金庫（災害流出品）開錠の問合せ対応
- ・飯舘村（計画的避難区域）の避難家庭への防犯設備の提案
（飯舘村内閣府原子力災害対策本部）
- ・福島県警察本部購入の捜査支援装置整備事業の提案
- ・福島県、不法投棄監視カメラの提案
- ・全国地域安全運動福島県民大会の後援

■今後の活動

- ・福島県防犯設備協会の県内各地域への広報活動
- ・会員との情報交換・情報提供と取組みの意識高揚
- ・福島県警察本部、福島県等との連携強化
- ・日本防犯設備協会及び地域関連協会との連携
- ・福島県防犯設備協会としての提案活動



福島県防犯設備協会 渡邊会長

第二部講演

「MIP教育プログラム」について

公益社団法人日本防犯設備協会 RBS委員会 委員長・映像セキュリティ委員会 前委員長
総合防犯設備士 第06-0181 三澤 賢洋

東京都セキュリティ促進協力会、大阪府防犯設備士協会、当協会の打合せを元に、当協会BSS委員会がマンションを想定して防犯カメラシステムのIP化とRBS（優良防犯機器認定制度）の普及促進を目的として行う教育プログラム（MIP教育プログラム）の概要について、ご説明いただいた。

なお、「MIP教育プログラム」基礎講座は全体で約4時間程度かかるため、本講座ではポイントのみを約1時間でご説明いただいた。

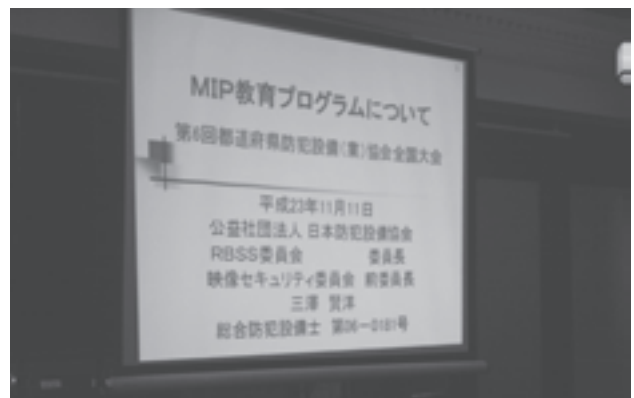
「MIP教育プログラム」における主な基礎講座内容は下記の通りです。

MIP教育プログラム基礎講座内容

- MIP教育をご理解いただくために
：目的と範囲、2つの立場
- IP-IF防犯カメラ導入の期待と困難さ
：期待と幻想とウソと誤解
- 防犯カメラとデジタルレコーダ（防犯用）
：NTSC（アナログ）との変化事項
- 防犯用映像ネットワーク部
：スイッチングハブとデータ、審査時の注意事項
- 演習と回答
- 実技
：実機を使ってVGA、メガピクセル画像の撮影と記録、制御を体験

■RBS委員会の防犯カメラネットワークWGが開発した、「ネットワーク利用ガイド」・「ネットワーク設計ガイド」を使い、防犯用映像ネットワーク部の説明を行います。

■IP-IF対応防犯カメラシステムを、防犯優良マンションなどで申請された際の対応と竣工後審査時に注意点を指摘できるレベルを目指しています。



懇親会開催



第三部の懇親会は、はじめに開催地協会のNPO法人兵庫県防犯設備協会 会長 西村 亥三男様、来賓の兵庫県防犯協会連合会 専務理事 三浦 敏行様のご挨拶で始まり、NPO法人大阪府防犯設備士協会 理事長 平野 富義様のご挨拶と乾杯の音頭で華やかに開催されました。

懇親会途中、去る3月11日に発生した東日本大震災において被災された、福島県防犯設備協会 会長 渡邊 弘志様より、お見舞金をいただいた関連地域協会への御礼の挨拶があり、また地元NPO法人兵庫県防犯設備協会 会長 西村 亥三男様より、被災された福島県防犯設備士協会へお見舞金が贈呈されました。

各地域の協会関係者の相互の情報交換や和やかな歓談の中で、ご出席の皆様の親睦を深めることができ、福島県防犯設備協会 渡邊会長の中締めのご挨拶で盛会のうちに終了いたしました。



NPO法人 兵庫県防犯設備協会 西村会長



兵庫県防犯協会連合会 三浦専務理事



乾杯：NPO法人 大阪府防犯設備士協会 平野理事長



兵庫県防犯設備協会よりお見舞金の贈呈



中締め：福島県防犯設備協会 渡邊会長